井原市埋蔵文化財発掘調査報告　3

青陰城跡

デジタル井原中継局建設事業に伴う発掘調査

2009

岡山県井原市教育委員会

井原市埋蔵文化財発掘調査報告　3

青 蔭 城 跡

デジタル井原中継局建設事業に伴う発掘調査

2009

岡山県井原市教育委員会

序

井原市は、岡山県の南西部に位置し、西は広島県に接します。市内の南部を小田川が西から東へ流れ、北は吉備高原の南端の丘陵が広がり、南は標高100m前後の低丘陵が笠岡まで広がっています。これらの山々に囲まれた本市は、温暖な気候と豊かな自然にはぐくまれ、古くから発展していました。

青蔭城跡は、市内南部の小田川でできた沖積平野を見下ろす丘陵先端に築かれた中世山城です。この場所には、昭和40年ごろより本丸および二ノ丸にテレビ中継放送局が建てられていましたが、さらに平成19年になってデジタルテレビの中継放送局の建設が持ち上がりました。計画地は山城の本丸にあたるためその保護保存について事業者と協議・調整を行ないましたが、記録保存のために発掘調査を行うこととなり、平成20年度に発掘調査を実施しました。

調査の結果、調査区域は過去のテレビアンテナ建設で破壊を受けていましたが、多くの中世土器が出土するなど、これまで知られていなかった青蔭城が使用された時期を知る上で貴重な資料が発見されました。

本報告書は、今回、発掘調査した成果をまとめたものです。本書が今後の文化財保護、保存に活用されますとともに、学術研究のための資料として、また郷土の歴史研究の資料として役立てば幸いに存じます。

最後になりましたが、発掘調査をはじめ、出土品の整理、本書の編集に至りますまで、ご指導ご協力を賜りました関係各位に対しまして衷心より厚くお礼申し上げます。

平成21年３月31日

井原市教育委員会

教育長　　佐　藤　勝　也

例　言

1．本書は、デジタル井原中継局建設事業に伴い、放送事業者（日本放送協会および岡山放送ほか民放２社）の依頼を受け、井原市教育委員会が実施した青蔭城跡の発掘調査報告書である。

2．遺跡は、井原市西江原町青蔭1954-1に所在する。

3．発掘調査は、平成20年９月９日から10月３日まで実施した。調査面積は86.9㎡である。整理作業および報告書作成は、平成20年10月７日から平成21年３月31日まで行った。整理作業にあたっては、佐藤明子（井原市文化財センター）の協力を得た。

4．調査及び報告書の編集は、井原市教育委員会文化課主任学芸員高田知樹が担当した。

5．遺構・遺物写真については、調査担当者が撮影した。

6．発掘調査で出土した遺物及び実測図・写真等は、すべて井原市文化財センター（岡山県井原市井原町333－１）にて保管している。

凡　例

1．報告書に記載された高度値は海抜高であり、方位はいずれも磁北を示す。

2．本書の第２図、第３図に使用した地形図は、井原市発行の都市計画図25,000分の１および2,500分の１の地形図を複製し、加筆したものである。

3．本書の遺構ならびに遺物の実測図の縮尺率については各図面に図示または明記している。

4．土層断面図等の土色および土器の色調は、『新版標準土色帖』（農林水産省農林水産技術会議事務局監修　財団法人日本色彩研究所色票監修）を参考に記述している。

5．遺物番号については、土器、土製品と金属製品に分けて通し番号をつけ、土製品、金属製品については、次の略号を付けている。

土製品：C、金属製品：M

6．土器実測図中で表現する中軸線左右の白抜きは、小破片のため口径復元に不確実性があるものを示す。

7．報告書中に用いる時代区分は、一般的な政治史区分に準拠し、土器編年については岡山県教育委員会が発行する『岡山県埋蔵文化財発掘調査報告』で通常使われている概念による。

8．写真図版のうち、遺物写真の番号は掲載遺物番号と一致する。

目　次

序
例　言
凡　例
目　次

第１章　遺跡の位置と環境…… 1

第２章　発掘調査の経緯と経過 …… 4
　第１節　発掘調査にいたる経緯 …… 4
　第２節　発掘調査及び報告書作成の経過 …… 6

第３章　発掘調査の概要…… 8
　第１節　調査区の位置と遺跡の概要 …… 8
　第２節　遺構・遺物 …… 9
　　1　柱穴群 …… 9
　　2　不明遺構 …… 9
　　3　遺構に伴わない遺物 …… 11

第４章　まとめ…… 13
　　1　遺物について …… 13
　　2　青蔭城についての文献 …… 13
　　3　青蔭城と近隣の山城 …… 14

遺物観察表 …… 15
図　版
報告書抄録
奥　付

図 目 次

第１図　遺跡位置図 …… 1
第２図　周辺遺跡分布図 …… 3
第３図　青蓙城縄張図及び調査区域図…… 4
第４図　調査区地形図及びトレンチ位置図 …… 5
第５図　確認調査トレンチ・出土遺物 …… 5
第６図　調査区遺構配置図・土層断面図 …… 8
第７図　柱穴群出土遺物…… 9
第８図　不明遺構・出土遺物１ ……10
第９図　不明遺構出土遺物２ ……11
第10図　遺構に伴わない遺物 ……12
第11図　青蓙城と近隣山城位置図 ……14

図版目次

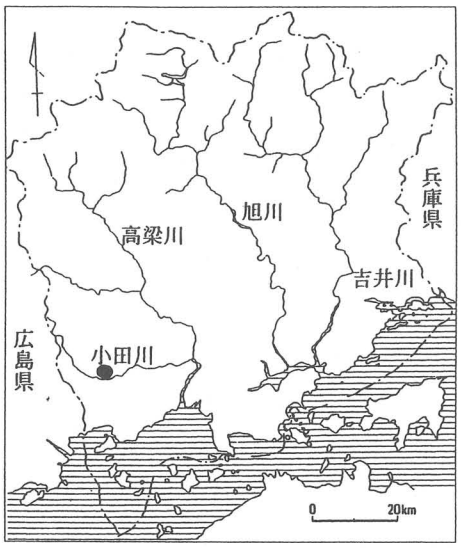
図版１－１　青蓙城跡遠景（南から）
　　－２　青蓙城跡からの眺望（北から）
図版２－１　確認調査作業風景（北東から）
　　－２　発掘調査作業風景（北から）
図版３－１　不明遺構調査風景（北西から）
　　－２　不明遺構遺物出土状況（東から）
図版４－１　不明遺構土層断面（南から）
　　－２　不明遺構完掘状況（北から）
図版５－１　調査区完掘状況（東から）
　　－２　調査終了後アンテナ設置状況（北西から）
図版６　出土土器１
図版７　出土土器２
図版８　出土土器３・出土土製品

表 目 次

第１表　埋蔵文化財確認調査の報告 …… 7
第２表　埋蔵文化財発掘の届出 …… 7
第３表　埋蔵文化財発掘調査の報告 …… 7
第４表　埋蔵文化財発見の届出 …… 7
第５表　土器観察表 ……15
第６表　土製品観察表 ……16
第７表　金属製品観察表 ……16

第１章　遺跡の位置と環境

青蔭城跡は、井原市西江原町字青蔭に所在している。井原市は、岡山県の最西端に位置し、南は笠岡市、西は広島県福山市、北は高梁市、東は小田郡矢掛町に接する。南部は笠岡から広がる標高100m前後の丘陵地帯、北部は吉備高原の南辺部にあたり、その多くが標高200～300mを超える台地となっている。そのほぼ中央を小田川が沖積平野をつくりながら鴫川、神戸川、雄神川、稲木川などの支流を合わせて北から流れ、市内のほぼ中央で東に向きを変え貫流している。この東西に長い沖積平野と並行するように井原線が走り、人口もこの平野に集中し、都市部を形成している。



第１図　遺跡位置図

本遺跡は、市の南部、吉備高原より広がっている丘陵の南へ派生した標高約90mの丘陵先端部に位置する。すぐ西側の丘陵下には小田川が南東方向に流れ、南方向の眼下には、その小田川でできた平野が広がっている。この小田川の流れに沿うように古代から山陽道が通っており、交通の幹線となっていた。

現在までに知られている市内の遺跡は、旧石器時代、縄文時代のものは確認されていない。弥生時代においても、前期までの遺跡は確認されておらず、中期以降の遺跡が知られている。弥生時代中期の遺跡として注目されるのは、六区袈裟襷文銅鐸が出土した下稲木町の寺屋敷銅鐸出土遺跡(1)、同町の明見銅鐸出土遺跡(2)、十二区袈裟襷文銅鐸が出土した木之子町の猿森銅鐸出土遺跡(3)がある。いずれも、本遺跡の南側に広がる標高約100mの丘陵上のゆるやかな南斜面より出土しており、特に寺屋敷銅鐸出土遺跡、明見銅鐸出土遺跡は出土位置が50メートルしか離れていない。銅鐸の出土した近隣では、同時代の散布地も確認されているため(4)、発掘調査されれば、集落跡が確認されるであろう。

後期になると市内の遺跡数が大幅増加する。本遺跡の周囲では、前述の銅鐸が出土した丘陵上に集落遺跡(草足塚西遺跡・権現平遺跡)(5)や同時期の散布地が点在している。また、本遺跡が所在する丘陵上にも弥生時代後期の散布地が確認されている(6)。

弥生時代終末期から古墳時代初頭では、本遺跡の西側、小田川を挟んで広がる丘陵尾根上に所在する金敷寺裏山墳丘墓(7)が注目される。倉敷考古館によって発掘調査が実施され、長方形の墳丘の中央に竪穴式石室をもつことが確認された。また石室内より、人骨一体が出土し、墳丘からは、特殊器台、特殊壺が出土している。

古墳時代にはいると、ほぼ市内全域で古墳がみられる。古墳時代前期は、箱式石棺を持つ小規模なものが中心ではあるが、東江原町の内挟１号墳(8)は直径が40mを超え、市内最大の円墳となる。また、谷を挟んだ西側の丘陵上にも直径30mを超える甲山古墳(9)が所在する。発掘調査した例では、大江町の石塔山古墳(10)、下出部町岩崎山３号墳(11)は倉敷考古館によって発掘調査され、いずれも竪穴式石室より人骨及び少量の鉄器が出土している。また、本遺跡の近隣では、谷を挟んだ東側丘陵頂上に箱式石棺をもつ天神山古墳(12)が所在する。

横穴式石室をもつ後期古墳も市内全域に広がる。井原市七日市町から岩倉町にかけて県道笠岡井原線の谷

筋には塚原古墳群、権現平古墳など石室の奥壁幅1.5mを超える比較的大きな横穴式石室をもつ古墳が集中する。その中の東大谷１号墳(13)は、発掘調査の結果、金銅装馬具、金銅装大刀金具などが出土している。

また、本遺跡の周囲では、隣の谷の山裾に小規模な横穴式石室をもつ神戸古墳群(13)があるがそれ以外には確認されていない。これらの古墳に伴う集落跡であるが、周辺の丘陵山裾の微高地に同時代の散布地である神戸遺跡(14)や立戸遺跡(15)がこれにあたると考えられる。

古代に入ると、本遺跡の所在する丘陵のすぐ南側を、東西に山陽道が通る。しかしながらそのルートは特定できず、稲木川のある沖積平野を通っていたという説もある。また、本遺跡から約300mとすぐ近くの南東方向の丘陵山裾には白鳳期に創建されたと伝えられる寺戸廃寺(16)がある。ここからは複弁蓮華文の川原寺式の軒丸瓦が出土しており、この軒丸瓦は笠岡市関戸の関戸廃寺(17)と同笵で、隣接した地域での豪族同士の結び付きが考えられる。またこの寺は、平安時代前半までの軒丸・軒平瓦が伝わっており、そのころまで存続していたようである(18)。

奈良時代以降、密教系の山岳寺院が、市内の小田川によって形成された沖積平野を見渡せる丘陵部を中心に建立される。本丘陵の平坦部にも北山廃寺(19)が所在し、現在もその僧坊や地名に僧坊があったことをうかがわせる字名が残っている。

中世にはいると、武家政権になり、本遺跡が所在する荏原郷は、関東武士の那須氏が地頭職となり、入ってくる。この那須氏は、その拠点であった西江原町才児や戸倉に山城や居館を築いた。本遺跡も那須氏の一族である大山氏が城を構えたと伝えられている(20)。また、そのほかにも山陽道を見渡せる丘陵上や北へ向かう街道を見下ろせる丘陵を中心に山城が築城され、南北朝の騒乱や戦国時代には文献にも現れ、近世にはいるまで利用されていたようである。また、市内のほぼ全域で中世の五輪塔、宝篋印塔が点在しており、土豪層が市域に広く住んでいたことがうかがわれる。

註

(１)梅原末治　『吉備考古』84号　1952年
(２)『岡山県埋蔵文化財報告』25　岡山県教育委員会　1992年
(３)鎌木義昌「岡山県猿ノ森遺跡」『日本農耕文化の形成』 杉原荘介編 1961年
(４)『井原市遺跡地図』　井原市教育委員会　2001年
(５)註(4)に同じ。
(６)註(4)に同じ。
(７)間壁忠彦・間壁葭子「岡山県井原市金敷寺裏山古墳」『倉敷考古館研究集報』第５号　倉敷考古館　1969年
(８)高田知樹「市内古墳の測量調査」『井原市史紀要　井原の歴史』第２号　井原市史編集委員会　2002年
(９)註(4)に同じ
(10)鎌木義昌　『岡山の古墳』　岡山文庫4　日本文教出版　1970年
(11)間壁忠彦　「岡山県下の人骨を出土した古墳六例」『倉敷考古館研究集報』第４号　倉敷考古館　1968年
(12)註(4)に同じ

(13)高田知樹　『東大谷１号墳』　井原市教育委員会　2003年

(14)註(4)に同じ

(15)註(4)に同じ

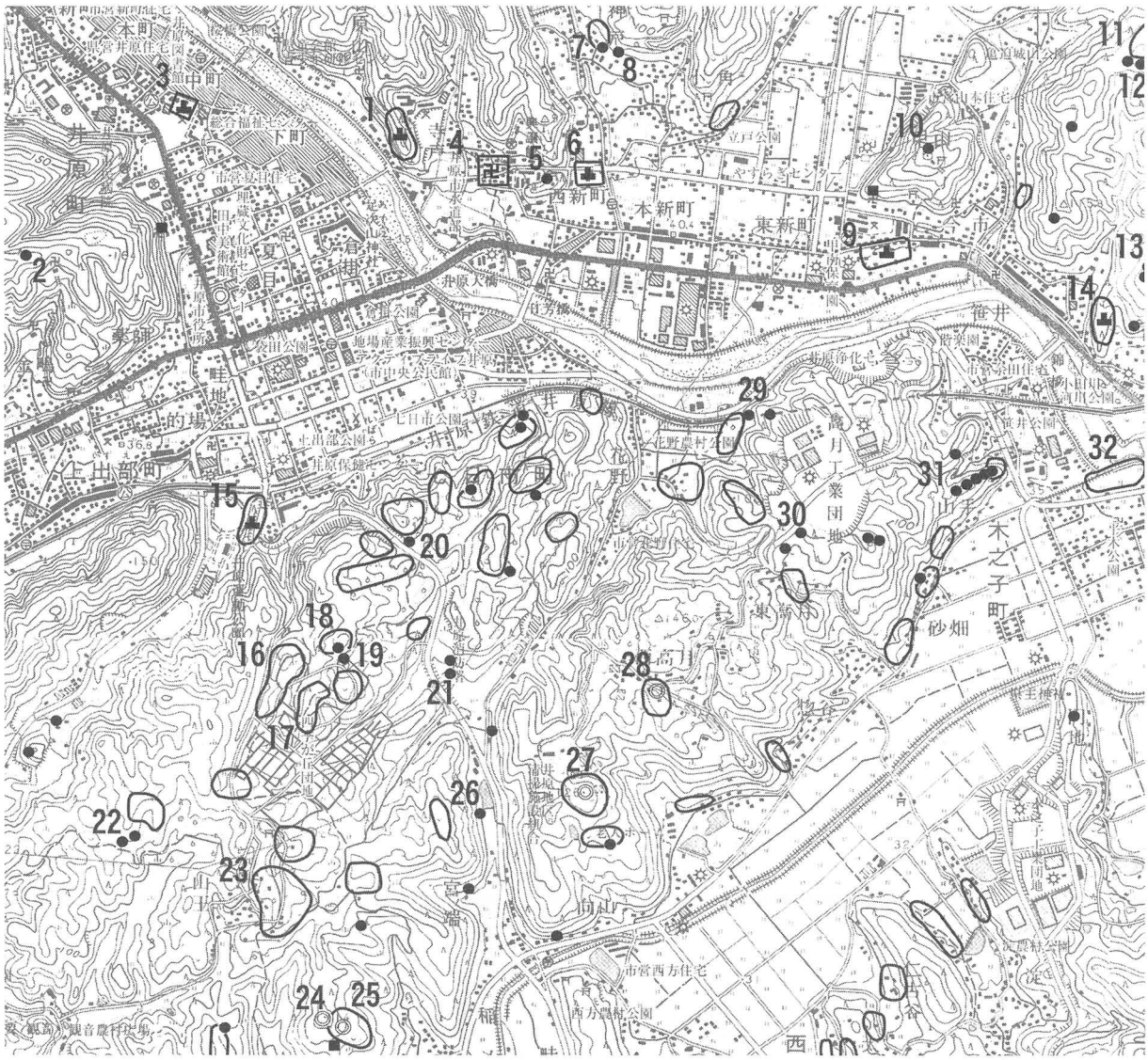
(16)註(4)に同じ

(17)安東康宏・岩崎仁司　『関戸廃寺』　笠岡市教育委員会　1997年

(18)『井原市史　Ⅰ　自然風土・考古・古代・中世・近世通史編』　井原市　2005年

(19)註(4)に同じ

(20)註(18)に同じ



1	青蔭城跡	9	中堀城跡	17	草足塚東遺跡	25	明見銅鐸出土遺跡
2	金敷寺裏山墳丘墓	10	甲山古墳	18	権現平遺跡	26	塚原古墳群
3	井原陣屋跡	11	高岩遺跡	19	権現平古墳群	27	猿森銅鐸出土遺跡
4	寺戸廃寺	12	高岩遺跡古墳群	20	権現平古墳	28	高月貝塚
5	天神山古墳	13	内挟古墳群	21	東大谷古墳群	29	狸原古墳群
6	一橋陣屋跡	14	白実城跡	22	二ツ岩古墳群	30	東高月古墳群
7	神戸遺跡	15	鎌田城跡	23	山王遺跡	31	山手古墳群
8	神戸古墳群	16	草足塚西遺跡	24	寺屋敷銅鐸出土遺跡	32	長法寺遺跡

第２図　周辺遺跡分布図（1/25,000）

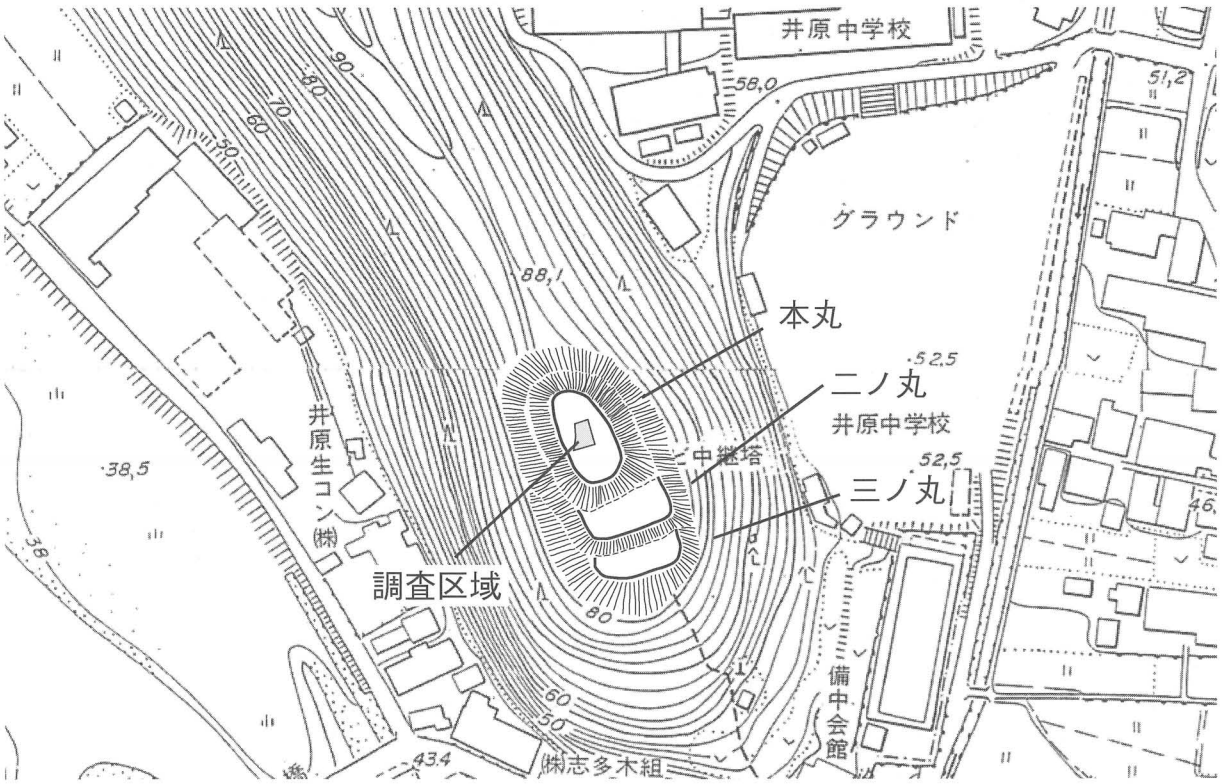
第２章　調査の経緯と経過

第１節　発掘調査にいたる経緯

現在、全面移行が進められているテレビの地上デジタル放送に向けて各地域でアンテナ中継基地局の整備が実施されているが、井原市においても井原地域を主たる放送エリアとする新たな中継基地局の建設が平成20年度に計画実施されることとなった。そのため事業者である岡山放送株式会社より、現在すでにアナログアンテナ基地局が設置されている本遺跡を候補地としたいと平成19年10月に井原市教育委員会および土地を管理している井原市商工観光課へ照会があった。

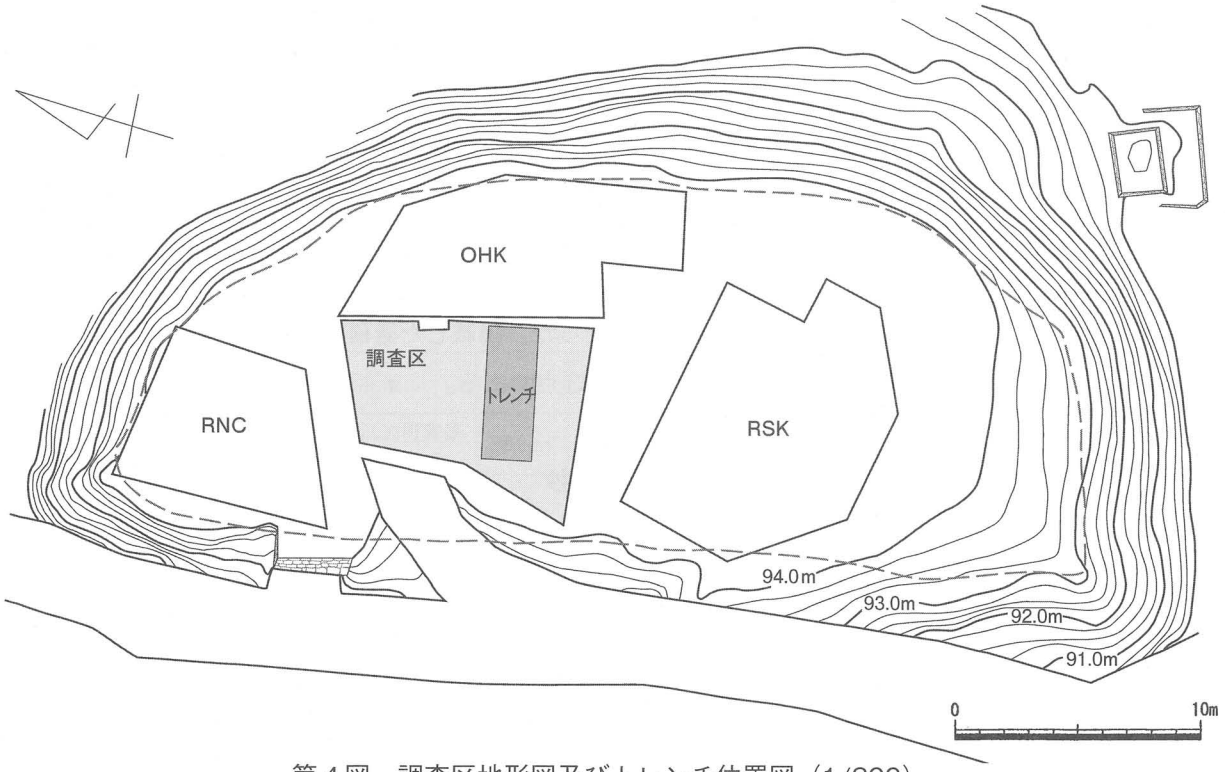
この青蔭城跡は周知の遺跡であり、建設が計画されている地点が城跡の主郭部であるため、その保存について事業者と協議を実施した。中継基地局の立地条件がこの地点以外では難しいこと及び事業の公共性が高いこと、さらには過去のアンテナ設置工事の際すでに遺構が破壊されていることが予想されたため事前に確認調査を実施することとした。

確認調査は、平成20年７月25日より実施した。計画予定面積86.9㎡の内、計画区域のほぼ中央に東西５m、南北２mのトレンチ１ヶ所を設定した。調査の結果、トレンチの東部にアンテナ中継基地局用の電源ケーブルが埋設されており、一部が破壊されていたが、表土直下より建物の柱穴と考えられる遺構及び中世の土器片等が出土した。１及び２は亀山焼の甕の胴部の破片と考えられる。Ｍ１は鉄釘である。また、図示していなが土師質の椀や皿の破片が包含層より出土した。この結果を受け、事業者と再度遺構の保存について協議を行ったが、計画変更が困難であることから、発掘調査による記録保存を行うこととなった。

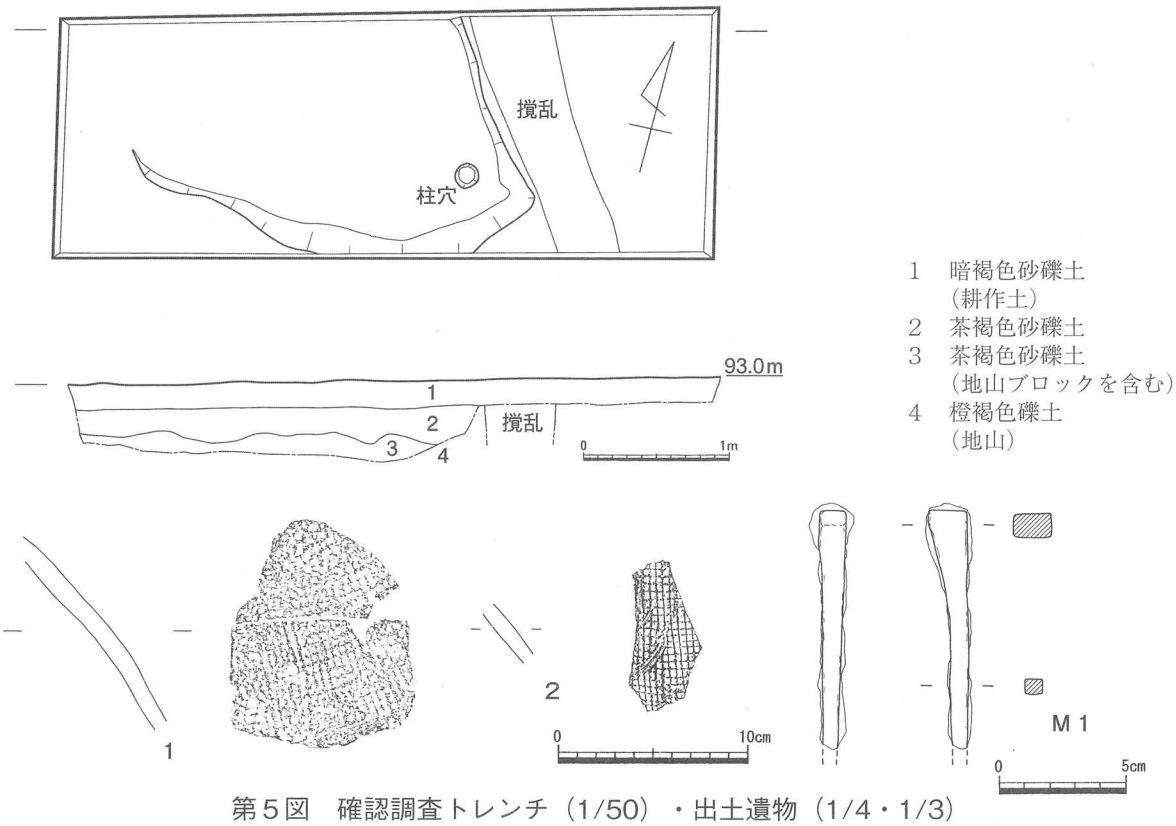


第３図　青蔭城縄張図及び調査区域図（1/2,500）

この協議を受け、事業者より平成20年８月20日付けで埋蔵文化財発掘の届出が行われ、また、井原市と事業者（日本放送協会・岡山放送・西日本放送・瀬戸内海放送）において青蔭城跡発掘調査事業の委託契約を平成20年９月３日に締結し、平成20年９月９日より、調査面積86.9㎡の発掘調査を開始した。



第４図　調査区地形図及びトレンチ位置図（1/300）



第５図　確認調査トレンチ（1/50）・出土遺物（1/4・1/3）

第２節　発掘調査および報告書作成の経過

青蔭城跡の発掘調査は、中継基地局建設で遺跡が消滅する範囲となる86.9㎡を対象とし、記録保存することを目的に実施した。調査期間は、平成20年９月９日から平成20年10月３日である。調査は、重機による表土除去後、人力により掘り下げ、遺構検出、遺構精査等を実施した。遺構は、調査区域の北東部分及び南半分で柱穴群が、また、北西部分で土壙状の不明遺構が検出された。これらの遺構については必要に応じて遺構の実測図作成、写真撮影を実施した。

報告書作成は、調査終了後の10月より取りかかり、21年３月まで行った。まず、調査終了後未整理であった土器の洗浄、注記を行い、続いて土器の接合、復元、実測、写真撮影を実施した。また、それと併行して遺構図の下図作成、遺構・遺物の浄書を行なった。掲載した遺構・遺物は、柱穴群、土壙と考えられる不明遺構１基と土器77点、土製品20点、鉄器３点である。

調査日誌抄

平成20年度
７月25日（金）　確認調査開始。
８月13日（水）　確認調査終了。
９月９日（火）　重機による表土剥ぎ取り開始。
10月１日（水）　調査区全景写真。
10月３日（金）　不明遺構完掘後、写真撮影・平面図実測。調査完了。
10月７日（火）　資材撤収、遺物整理作業開始。
３月13日（金）　報告書作成作業終了。

調査・整理の体制

井原市教育委員会
　教 育 長　佐藤勝也

　教育次長　佐藤文則

　文化課
　　課　　長　　小田義晴
　　係　　長　　原田恒司
　　主　　任　　金澤千鶴子、岡崎智嘉司
　　主任学芸員　　高田知樹（調査・報告書担当）
　　研究員（嘱託）　首藤ゆきえ
　　臨時職員　　佐藤明子（整理作業）

（調査作業員）

出原　実、岡谷喜宏、賀川健次、妹尾良雄

文化財保護法等に基づく届出書類一覧

第１表　埋蔵文化財確認調査の報告

文書番号 日　付	遺跡の種類 および名称	周知・ 周知外	所在地	面積	調査の契機	包蔵地 の有無	報告者	担当者	期　間
井教文 12 号 H 20.8.15	城館跡 青蔭城跡	周　知	井原市西江原町 青蔭 1954-1	10 ㎡	通信設備	有	井原市教育委員会 教育長　佐藤勝也	高田知樹	H 20.7.25 ～ H 20.8.13

第２表　埋蔵文化財発掘の届出

文書番号 日　付	遺跡の種類 および名称	所在地	面積	調査の契機	届出者	主な指示事項
井教文 13 号 H 20.8.20	城館跡 青蔭城跡	井原市西江原町青蔭 1954-1	96.9 ㎡	通信設備	岡山放送 代表取締役社長　宮内正喜	井原市教育委員会による 発掘調査

第３表　埋蔵文化財発掘調査の報告

文書番号 日　付	遺跡の種類 および名称	所在地	面積	調査の契機	報告者	担当者	期　間
井教文 14 号 H 20.9.9	城館跡 青蔭城跡	井原市西江原町青蔭 1954-1	10 ㎡	通信設備	井原市教育委員会 教育長　佐藤勝也	高田知樹	H 20.9.9 ～ H 20.10.3

第４表　埋蔵文化財発見の届出

文書番号 日　付	遺跡の種類 および名称	発見場所	物件名	出土年月日	発見者	土地所有者	保管場所
H 20.10.7	城館跡 青蔭城跡	井原市西江原町青蔭 1954-1	土師器 5 箱	H 20.9.9 ～ H 20.10.3	井原市教育委員会 教育長　佐藤勝也	井原市長 瀧本豊文	井原市文化財センター

発掘調査および報告書作成にあたっては、岡山県教育庁文化財課、岡山県古代吉備文化財センターから多大な援助を受けた。また、下記の方々からは調査全般にわたり有益なご教示、協力を得た。記して感謝します。

安東康宏、磯久容子、佐藤寛介、島崎　東、武田恭彰、團　奈歩、土井基司、平井泰男、福島政文、細羽千枝

（敬称略、50音順）

第３章　発掘調査の概要

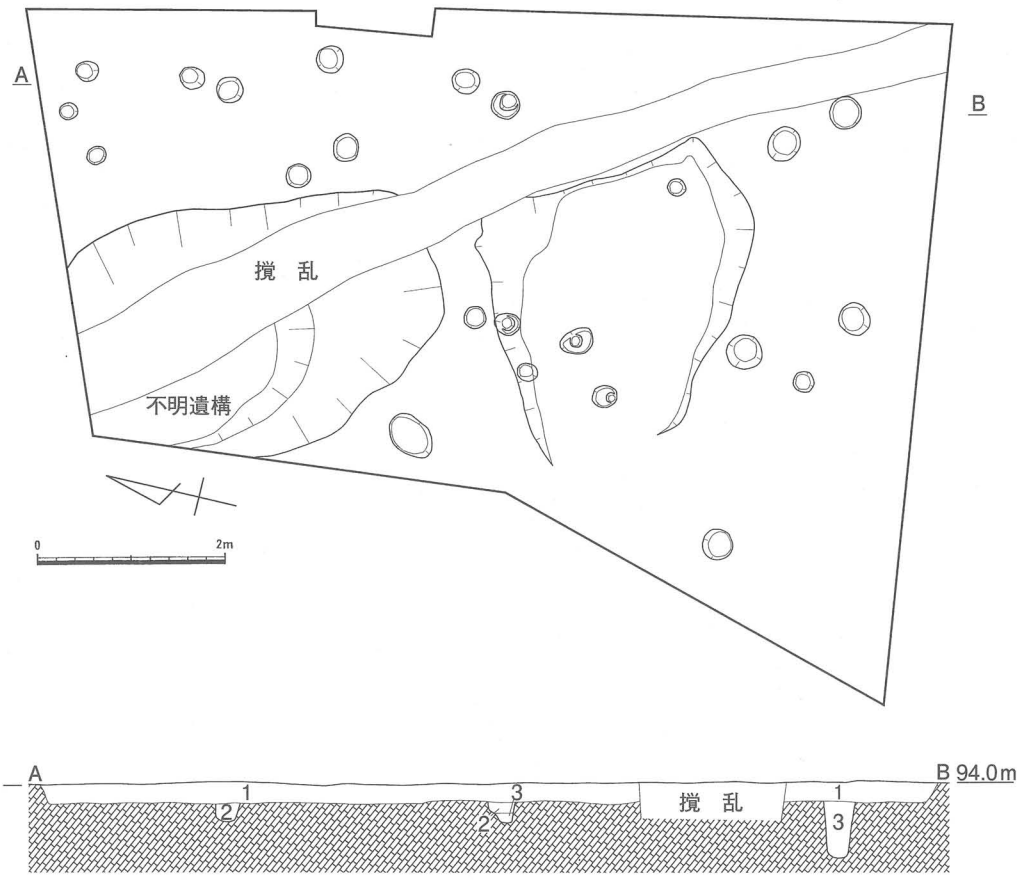
第１節　調査区の位置と遺跡の概要

青蔭城跡は、井原市の南部にあたり、市の中央から北へ広がる吉備高原の丘陵地帯から南方向に小田川と平行するように派生した丘陵先端の尾根上の標高約90mに位置する。西側には、芳井町から流れてきた小田川が流路を東に変え、矢掛町の方向に流れている。また、小田川によってできた沖積平野が南から東側に広がる。

この丘陵頂上に調査区が含まれる本丸が所在する。二ノ丸・三ノ丸は、この本丸の南側に階段状に築かれている。本丸の北側は、台地へ延びる平坦な尾根が続くが、掘切りなどの遺構は確認されていない。また、本丸の東西には、犬走り状の幅の狭い段があるが明確に遺構かどうか確認できない。

調査区のある本丸は、長軸（南北方向）に約30m、短軸（東西方向）に約15mの楕円形状を呈している。すぐ南にある二ノ丸とは比高差約５mを測る。本丸の南部、東部、北部及び二ノ丸は、テレビ中継基地局が既に建てられ、遺構面は破壊されている。

調査区は、本丸の北西部に位置し、調査対象面積は、86.9㎡を測るが、調査区のほぼ中央を南北にテレビ中継基地局の電源ケーブルが埋設されているため調査面積は、それより約10㎡少ない。調査は、



１　暗褐色砂礫土（表土）　２　灰褐色砂礫土　３　暗褐色砂礫土（炭化物を含む）

第６図　調査区遺構配置図・土層断面図（1/80）

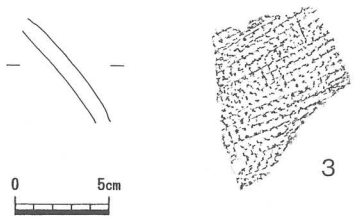
本丸に残る建物等の有無、本遺跡が使用されていた時期を確認する目的で実施した。

調査の結果、本丸は地山を平坦になるよう削平し、築造されている。その上に約20cm程度表土が堆積し、その中に遺物が混じっていた。調査区のほぼ中央には、地山を削ったたわみ状の遺構が確認できたほか、調査区のほぼ全域で掘立柱建物のものと考えられる柱穴が確認された。また、調査区の南西部には擂鉢状の用途不明の土壙状の遺構も確認され、その堆積土より土師質土器を中心に比較的まとまって遺物が出土した。

第２節　遺構・遺物

１　柱穴群

今回の調査で、合計23個の柱穴が確認された。柱穴は、調査区の北東部分及び南部分に多く検出された。特に東部で出土した柱穴は、直径及び深さがほぼ同じであるため同じ建物である可能性があるが、調査区が狭いため建物の構成や規模などは不明である。



第７図　柱穴群出土遺物（1/4）

出土遺物には、亀山焼３のほか図示していないが土師質土器片がある。３は柱穴の埋土中より出土した甕の肩部の破片で、外面に格子目状のタタキ目、内面は同心円状のタタキ目がある。

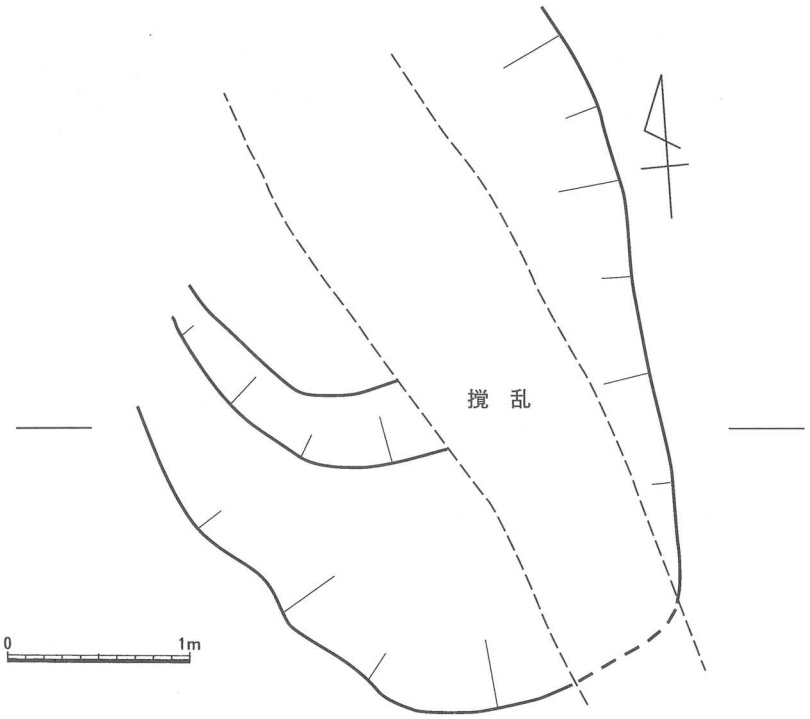
これらの遺物から柱穴群は14世紀ごろのものと考えられ、これに伴う建物も同時期に建てられていたと推測される。

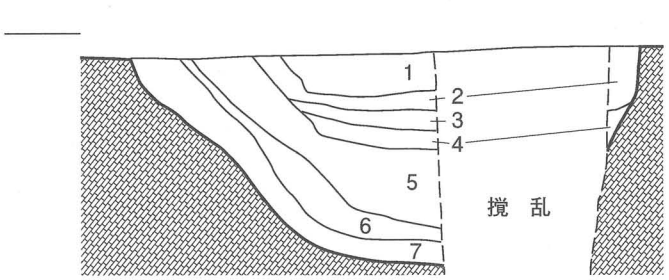
２　不明遺構

調査区の北西部で、一部調査区外にかかるため全体の規模は不明であるが、長径４m以上、短径2.8mの平面形が楕円形をした土壙状の遺構が確認された。断面は、擂鉢状になっているため貯蔵穴とは考えにくい。遺物は、堆積した埋土のいずれの層からも出土しているが、遺構の底近くからは完形もしくは完形に近い土器が出土している。

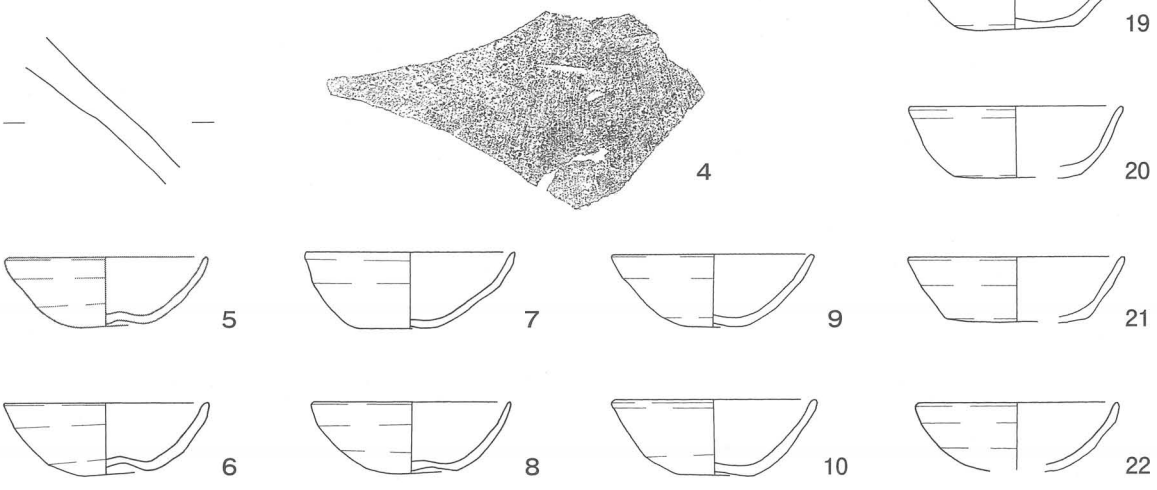
出土遺物には、備前焼４、土師質土器５～44、土製品C1～C13、鉄器Ｍ２・Ｍ３がある。４は、甕の肩部の破片である。外面に縦方向のハケ目が残る。５～15、22～26は椀である。底部は、高台が付くものは無く、底部が平らなものとくぼんでいるものとに分かれる。５～15は、底部が内側にくぼんでいるいわゆるへそ椀と呼ばれるものである。５～11は、口径11.0～10.0cmで、胎土も砂粒が若干入るが精良である。それに対して12～14は、胎土は、砂流が多く荒い。口径も9.7～10.1cmとわずかに小さく、底部のくぼみも深い。また、口縁部が直立している。16～21は杯である。口径も11.2～13.7cmと大きい。18～20は、底部を回転ヘラ切りしている。27～44は小型の皿である。口径6.2～8.2cmを測り、いずれも底部を回転ヘラ切りしている。胎土は、１mm以下の砂流を含むものと精良なものに分かれる。Ｃ１～C13はいずれも土錘である。大きいもので長さ4.9cm、幅は1.6cmを測り、中央が膨れる筒状を呈している。胎土は、いずれも精良で、砂粒もほとんど含まれない。Ｍ２・Ｍ３はいずれも鉄釘である。どちらも先端は欠けているが、軸は方形で頭部を平坦にしている。

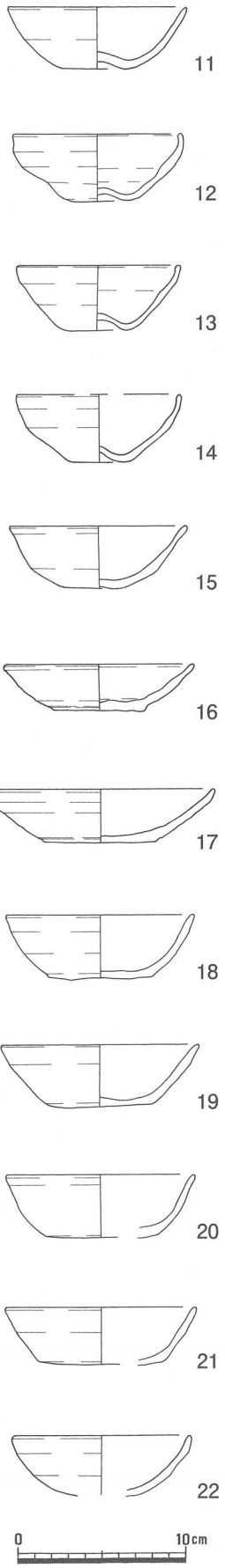
これらの遺物から不明遺構は、14世紀のものと考えられる。



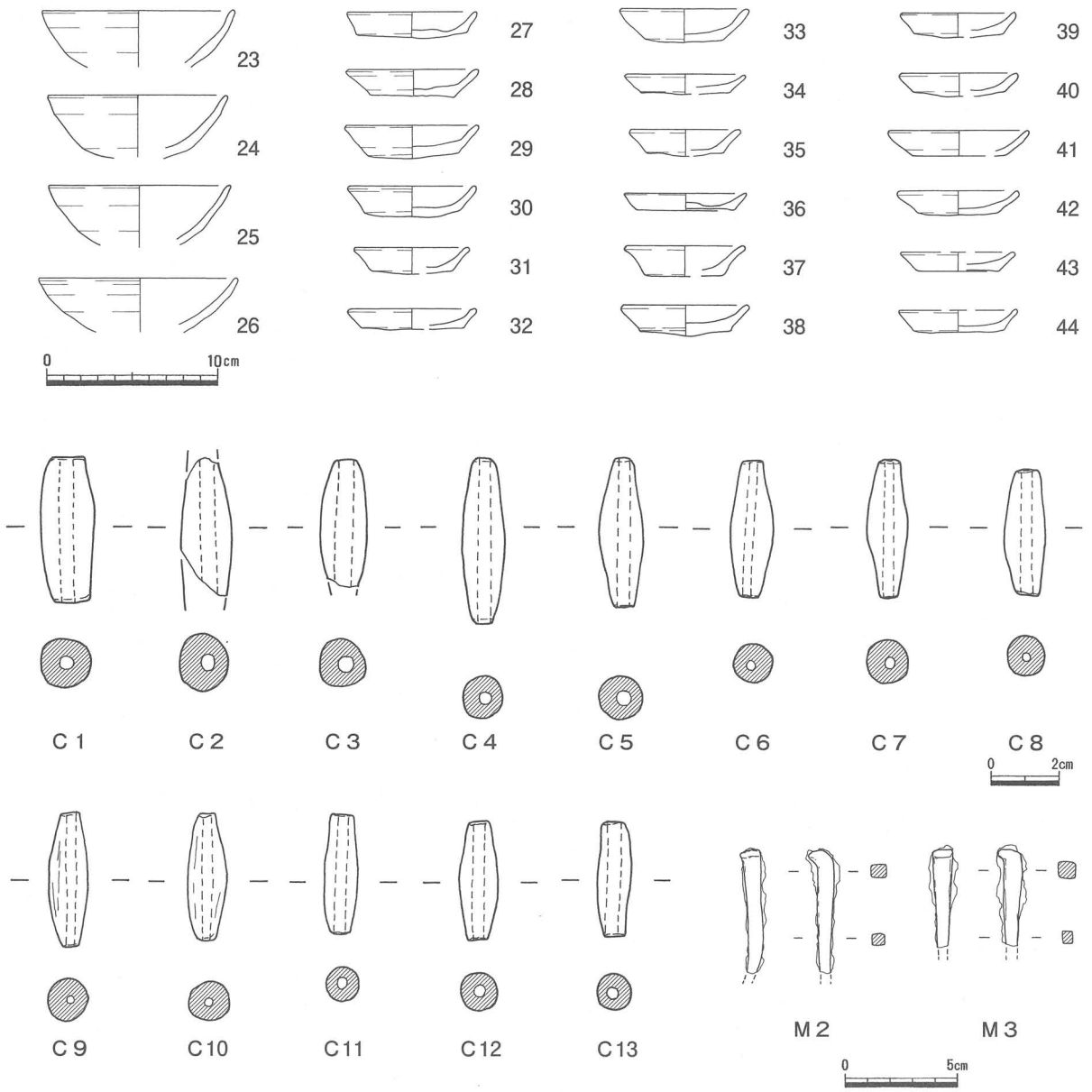


1　赤褐色砂礫土（焼土）　　2　灰褐色砂礫土
3　灰褐色砂礫土（地山ブロックを含む）　　4　茶褐色砂礫土
5　橙褐色砂礫土（地山ブロックを含む）　　6　茶褐色砂礫土（地山ブロックを含む）
7　橙褐色砂礫土（地山ブロックを含む）





第８図　不明遺構（1/40）・出土遺物１（1/4）



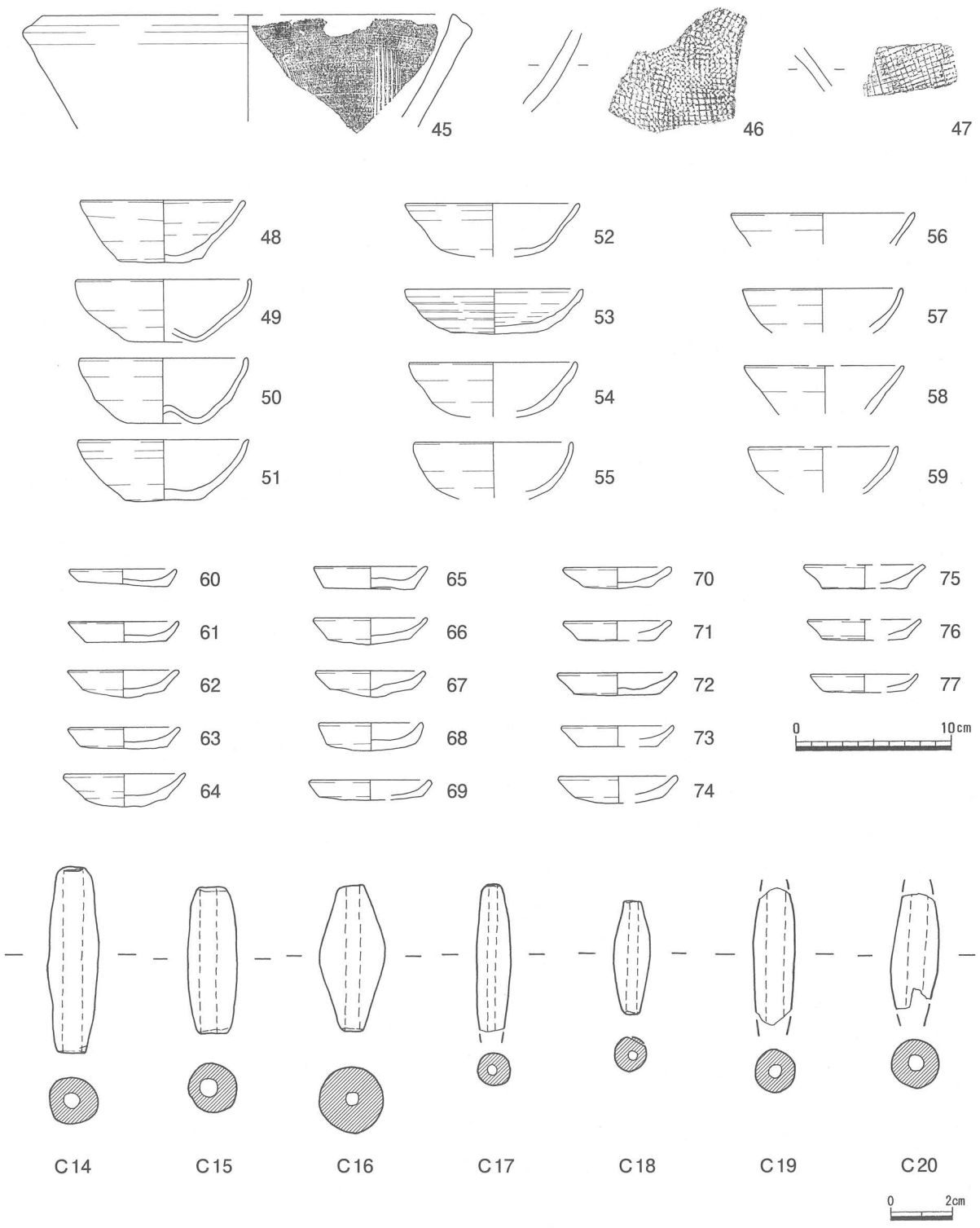
第９図　不明遺構出土遺物２（1/4・1/3・1/2）

３　遺構に伴わない遺物

遺構に伴わない遺物として、表土中や包含層から比較的多くの遺物が出土している。これは、過去のアンテナ建設工事や電源ケーブル埋設の際、遺構面を掘削したためと考えられる。図示した遺物は、備前焼の擂鉢45、亀山焼の甕46・47、土師質土器は、椀48～52、54～59、杯53、皿60～77、土製品は、土錘C14～C20である。

45は、擂鉢で、口径29.2cmを測る。口縁端部を、外面は三角形になるように仕上げ、内面は垂直方向にやや立ち上げている。内面に５条の擂り目を入れており、14世紀のものと考えられる。46・47は、甕の胴部または肩部の破片で、外面はいずれも格子目状のタタキ目を施している。内面は、47が同心円のタタキを施した後、ヨコ方向のハケ目を施している。椀で底部が残存しているものは49・50であるが、49は器壁が２～３mmと薄く、口縁部が内側に傾いている。53は底部を回転ヘラ切りし、器壁にらせん状の凹凸が残る。皿60～77は、小型の皿で、口径は6.65～7.8cmを測る。いずれも底部を

回転ヘラ切りしている。胎土は、１mm以下の砂流を含むものが多い。これら土師質土器は、その形態から14世紀のものと考えられる。土錘**C14～C20**は、大きいもので長さ6.0cm、幅は1.65cm、小さいもので長さ3.7cm、幅は1.2cmを測り大きさにばらつきがある。中央が膨れる筒状を呈しており、胎土は、いずれも精良で、砂粒もほとんど含まれない。



第10図　遺構に伴わない遺物（1/4・1/2）

第4章　ま　と　め

今回、井原市内において部分的ではあるが、初めて中世の山城の発掘調査が実施された。調査地点である青蔭城跡の本丸は、すでにテレビアンテナが3箇所設置されており、また今回の調査区の中央をそれらの電源ケーブルが埋設されていたため、遺構の確認が難しかったが、青蔭城が機能していた中世の遺物が比較的まとまって出土した。今回の調査結果を、青蔭城が使われていた時期の手がかりとなる土師質土器を中心とした遺物および本遺跡の立地とその性格からまとめてみたい。

1　遺物について

今回の調査では、調査区の範囲が狭くかつ撹乱を受けていたにもかかわらず多くの遺物が出土した。時期がわかるものでは、備前焼、亀山焼、土師質土器がある。なかでも土師質土器は、椀、杯、皿を中心に比較的まとまって出土した。これら土師質土器は、備中南西部において園井土井遺跡(1)、本谷遺跡(2)でまとまって出土しており、なかでも本谷遺跡では祭祀状遺構において一括して出土した土師質土器の椀について草戸千軒町遺跡をもとに編年が作成されている。本遺跡も本谷遺跡にしたがって出土した椀の位置づけを試みたい。

本遺跡で出土した土師質土器の椀は、高台の付いたものは出土しておらず、そのほとんどが底部のほぼ中央を２mm～５mm程度くぼませたいわゆるへそ椀と呼ばれるものである。口径が、9.7cm～11.2cm、器高は、3.7cm～4.9cmの範囲でおさまり、このうち、不明遺構出土の12・13・14および包含層出土の49は、くぼんでいる椀のなかでも胎土が粗く、口縁端部が内側に湾曲するように立ち上がっている。これは、本谷遺跡の祭祀状遺構から出土した椀と器形及び胎土が類似している。本谷遺跡ではこの椀を本谷３期と位置づけ、年代を14世紀後半から15世紀初めをあてている(3)。また、草戸千軒町遺跡では、これらのへそ椀を椀Cとし、この椀Cは、Ⅱ期後半新段階より出現し、Ⅱ期新段階までみられ、Ⅲ期には消滅するとしている。草戸千軒町遺跡では、このⅡ期後半を14世紀中葉に比定している(4)。以上のことから本遺跡から出土した椀は、14世紀中葉から14世紀後葉のものと考えられ、この椀が出土した不明遺構から一括で出土した椀、杯及び皿についても同時期であると考えられる。

また少量ではあるが、器壁にらせん状の凹凸を残す杯が出土している。上記の園井土井遺跡、本谷遺跡では類例が確認されていない。しかしながら、広島県府中市に所在する坊迫C遺跡(5)よりこの凹凸を残すものがまとまって出土している。法量的に本遺跡出土のものは坊迫C遺跡でいう4層上層のⅣ群に属すると考えられ、13世紀後半～14世紀頃をあてている。坊迫C遺跡は、草戸千軒町遺跡とは異なり、内陸に所在し、山陽道と備後国府が眼下に広がるところに立地している。古代より山陽道がすぐ近くにあるということで本遺跡と一致しており、この地域の土師質土器の流通について注目される。

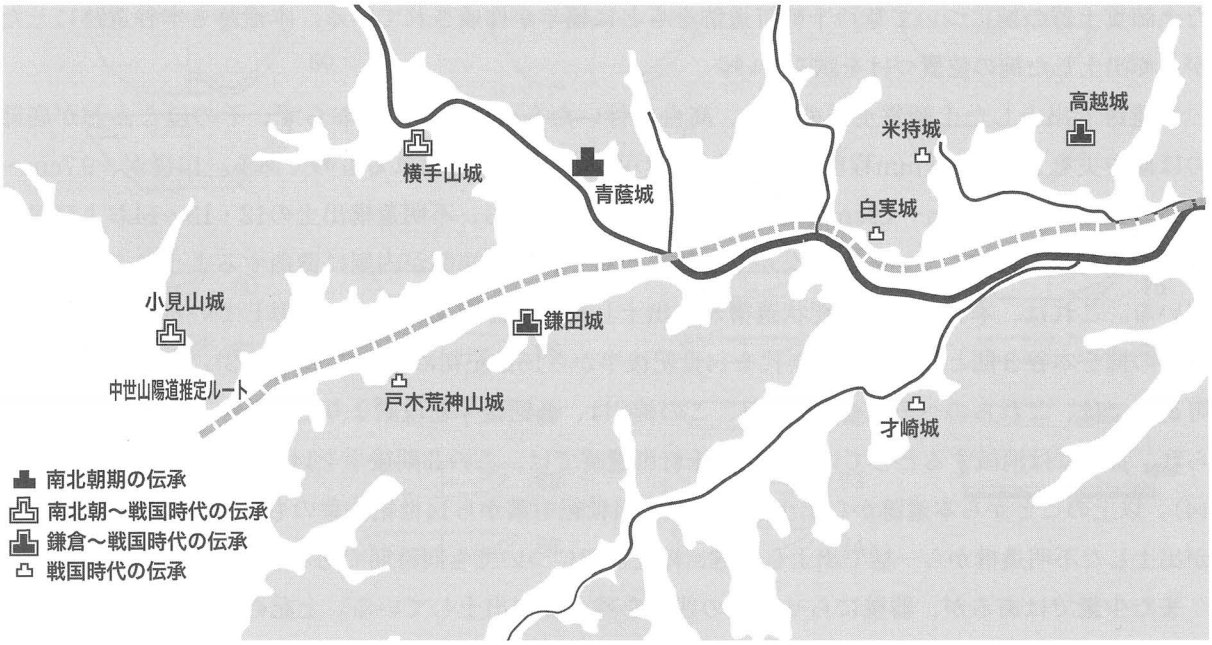
2　青蔭城についての文献

本遺跡が所在する丘陵は、小田川に沿うように伸びた尾根の先端に位置する。南は東西に走る山陽道を一望に望むことのでき、また、西は小田川を挟んで北方向の芳井地域へとつながる街道も見渡すことができる要害の地であるといえる。この青蔭城についての史料は乏しく、大正15年に発刊された『後月郡誌』によれば江戸時代に書かれた『備中誌』の引用として、鎌倉時代この地の地頭職を務め

た那須氏の一族である大山氏が居城にしていたとある。この大山氏は、那須氏が関東から入部してきた際同行し、青蔭城主となった。この子孫である大山定義が南北朝の騒乱の際南朝に属していたが、周辺の武将が足利義満のころ優勢となった北朝に寝返ったためこの青蔭城を開城し隠遁したと記されている。南北朝が統一されたのは1392年であり、出土した遺物の時代とほぼ一致する。このことから青蔭城は、南北朝騒乱時に築城され、南北朝の争乱が終焉するころ廃城したと推測される。

３　青蔭城と近隣の山城

この近隣の中世山城は、過去に発掘調査されたことがなく山城が機能していた具体的な時期が不明なものがほとんどであり、地誌などの資料に頼るほかない。しかし、備中と備後の国境に近い地域であることと、九州と都をつなぐ山陽道と備中の高原地帯から合流する街道があったことから、鎌倉時代から戦国時代にかけて多くの山城が築かれている。特に山陽道を見下ろす丘陵上には、１kmにも満たない間隔で山城が築かれている(6)。このうち、青蔭城と同じ南北朝の伝承をもつ山城は、青蔭城と小田川を挟んで所在する横手山城・鎌田城、山陽道と備後の山野に抜ける街道を見下ろす位置に所在する小見山城、小田郡との境に近い高越城がある。



第11図　青蔭城と近隣山城位置図

註

(1)岡田博ほか　「園井土井遺跡」『岡山県埋蔵文化財発掘調査報告』70　岡山県教育委員会　1988年
(2)網本善光　「本谷遺跡」『笠岡市埋蔵文化財発掘調査報告』１　笠岡市教育委員会　1987年
(3)註(2)に同じ
(4)鈴木康之「第Ⅲ章　遺物　１土器類」『草戸千軒町遺跡発掘調査報告』Ⅴ
　広島県草戸千軒町遺跡調査研究所編　1996年
(5)岡田容子「坊迫遺跡群」『府中市埋蔵文化財調査報告書』13　府中市教育委員会　2001年
(6)井原市史編纂委員会編『井原市史』Ⅰ　自然風土・考古・古代・中世・近世通史編　井原市　2005年

第５表　土器観察表

掲載番号	出土遺構	種　別	器種	法量（cm）			色　調	胎　土	特　徴
				口径	底径	器高			
1	包含層（確認調査）	亀山焼	甕				（外）10Y4/1 灰色 （内）10YR4/1 にぶい黄橙	1mm 以下の砂粒を多く含む	肩部破片　外面格子目タタキ、内面ヨコハケ
2	包含層（確認調査）	亀山焼	甕				（外）5Y5/1 灰 （内）5Y4/1 灰	1mm 以下の砂粒含む	肩部破片　外面格子目タタキ
3	柱穴群（P－10）	亀山焼	甕				（外）5Y3/1 オリーブ黒 （内）10YR6/3 にぶい黄橙	1mm 以下の砂粒含む	肩部破片　外面格子目タタキ、内面同心円状タタキ
4	不明遺構	備前焼	甕				（外）5Y R 4/2 灰褐 （内）7.5R3/6 暗赤	2mm 以下の砂粒含む	肩部破片　外面タテハケ
5	不明遺構	土師質土器	椀	10.6	3.85	3.8	（内外）10YR8/2 灰白	1mm 以下の砂粒含む	完形
6	不明遺構	土師質土器	椀	10.8	4.2	3.85	（内外）10YR8/2 灰白	1mm 以下の砂粒含む	ほぼ完形
7	不明遺構	土師質土器	椀	11.0	4.6	4.05	（内外）10YR8/2 灰白	1mm 以下の砂粒を少し含む	ほぼ完形
8	不明遺構	土師質土器	椀	10.4	4.8	3.9	（内外）10YR8/2 灰白	1mm 以下の砂粒含む	ほぼ完形
9	不明遺構	土師質土器	椀	10.5	3.0	3.85	（内外）10YR8/2 灰白	1.5mm 以下の砂粒含む	2/3 残存
10	不明遺構	土師質土器	椀	10.65	4.1	4.05	（内外）10YR7/3 にぶい黄橙	1mm 以下の砂粒含む	2/3 残存
11	不明遺構	土師質土器	椀	10.8	4.2	3.8	（内外）10YR8/2 灰白	1mm 以下の砂粒含む	1/3 残存
12	不明遺構	土師質土器	椀	10.1	3.5	4.1	（内外）10YR8/2 灰白	1.5mm 以下の砂粒多く含む	完形
13	不明遺構	土師質土器	椀	9.7	3.7	4.9	（内外）10YR8/3 浅黄橙	1.5mm 以下の砂粒多く含む	2/3 残存
14	不明遺構	土師質土器	椀	9.7	3.9	4.1	（内外）10YR8/2 灰白	1.5mm 以下の砂粒多く含む	1/6 残存
15	不明遺構	土師質土器	椀	10.6	3.4	3.7	（内外）7.5YR8/4 浅黄橙	2mm 以下の砂粒含む	ほぼ完形
16	不明遺構	土師質土器	杯	11.2	5.5	2.85	（内外）10YR6/4 にぶい黄橙	1mm 以下の砂粒含む	2/3 残存
17	不明遺構	土師質土器	杯	13.6	6.7	3.2	（内外）10YR6/4 にぶい黄褐	2mm 以下の砂粒多く含む	1/3 残存
18	不明遺構	土師質土器	杯	11.2	6.25	4.9	（内外）10YR8/2 灰白	1mm 以下の砂粒含む	2/3 残存
19	不明遺構	土師質土器	杯	11.7	6.6	3.8	（内外）2.5Y4/1 黄灰	1.5mm 以下の砂粒含む	1/4 残存
20	不明遺構	土師質土器	杯	11.2	6.6	3.8	（内外）10YR8/2 灰白	1mm 以下の砂粒含む	1/3 残存
21	不明遺構	土師質土器	杯	11.3	7.4	(3.5)	（内外）10YR8/2 灰白	1mm 以下の砂粒含む	1/4 残存
22	不明遺構	土師質土器	椀	10.5			（内外）10YR8/2 灰白	1mm 以下の砂粒含む	口縁部　1/3 残存
23	不明遺構	土師質土器	椀	11.2			（内外）10YR7/2 にぶい黄橙	1mm 以下の砂粒含む	1/3 残存
24	不明遺構	土師質土器	椀	10.4			（内外）10YR8/2 灰白	1mm 以下の砂粒含む	1/4 残存
25	不明遺構	土師質土器	椀	10.6			（内外）10YR7/3 にぶい黄橙	0.5mm 以下の砂粒含む	口縁部　1/4 残存
26	不明遺構	土師質土器	椀	11.5			（内外）2.5Y6/2 灰黄	1mm 以下の砂粒含む	口縁部　1/4 残存
27	不明遺構	土師質土器	皿	7.35	6.5	1.5	（内外）10YR8/3 浅黄橙	1mm 以下の砂粒含む	完形
28	不明遺構	土師質土器	皿	7.6	4.9	1.55	（内外）10YR8/3 浅黄橙	1mm 以下の砂粒含む	完形
29	不明遺構	土師質土器	皿	7.6	5.3	1.9	（内外）10YR8/3 浅黄橙	2mm 以下の砂粒含む	完形
30	不明遺構	土師質土器	皿	7.3	5.6	1.85	（内外）10YR8/3 浅黄橙	2mm 以下の砂粒含む	ほぼ完形
31	不明遺構	土師質土器	皿	6.6	4.8	(1.6)	（内外）10YR8/3 浅黄橙	2mm 以下の砂粒含む	1/2 残存
32	不明遺構	土師質土器	皿	7.4	6.0	(1.25)	（内外）10YR8/3 浅黄橙	1mm 以下の砂粒含む	1/2 残存
33	不明遺構	土師質土器	皿	7.4	4.6	1.95	（内外）10YR8/3 浅黄橙	1.5mm 以下の砂粒含む	1/3 残存
34	不明遺構	土師質土器	皿	6.9	5.2	(1.25)	（内外）7.5YR8/4 浅黄橙	1mm 以下の砂粒含む	1/4 残存
35	不明遺構	土師質土器	皿	6.3	4.6	(1.55)	（内外）10YR8/3 浅黄橙	2mm 以下の砂粒含む	1/5 残存
36	不明遺構	土師質土器	皿	7.0	5.6	(1.0)	（内外）10YR6/3 にぶい黄橙	2mm 以下の砂粒多く含む	1/6 残存
37	不明遺構	土師質土器	皿	7.2	6.4	1.9	（内外）10YR8/3 浅黄橙	1mm 以下の砂粒含む	1/4 残存
38	不明遺構	土師質土器	皿	6.75	4.7	(1.8)	（内外）10YR8/3 浅黄橙	1mm 以下の砂粒含む	1/4 残存
39	不明遺構	土師質土器	皿	6.5	5.2	(1.4)	（内外）10YR8/3 浅黄橙	0.5mm 以下の砂粒含む	1/5 残存
40	不明遺構	土師質土器	皿	6.65	5.4	(1.4)	（内外）10YR8/3 浅黄橙	1mm 以下の砂粒含む	1/6 残存
41	不明遺構	土師質土器	皿	8.2	5.5	(1.5)	（内外）10YR8/3 浅黄橙	1mm 以下の砂粒含む	1/7 残存
42	不明遺構	土師質土器	皿	7.0	5.85	1.45	（内外）10YR8/3 浅黄橙	0.5mm 以下の砂粒含む	1/8 残存
43	不明遺構	土師質土器	皿	6.6	4.8	1.1	（内外）10YR8/3 浅黄橙	1mm 以下の砂粒含む	1/5 残存
44	不明遺構	土師質土器	皿	6.8	5.3	1.3	（内外）10YR8/3 浅黄橙	0.5mm 以下の砂粒含む	1/6 残存
45	包含層	備前焼	鉢	29.2	－	－	（内外）2.5YR4/2 灰赤	2mm 以下の砂粒含む	口縁部　1/6 残存　内面 5 条の擂目
46	包含層	亀山焼	甕	－	－	－	（外）N3/ 暗灰 （内）7.5Y6/1 灰	2mm 以下の砂粒多く含む	胴部破片　外面格子目タタキ　内面同心円状タタキ
47	包含層	亀山焼	甕	－	－	－	（外）10YR5/2 灰黄褐 （内）7.5Y5/3 にぶい褐	精良	肩部破片　外面格子目タタキ　内面同心円状タタキ
48	包含層	土師質土器	椀	10.4	5.6	4.0	（内外）10YR7/3 にぶい黄橙	1mm 以下の砂粒含む	ほぼ完形
49	包含層	土師質土器	椀	11.2	5.0	4.1	（内外）10YR8/3 浅黄橙	1mm 以下の砂粒多く含む	1/2 残存
50	包含層	土師質土器	椀	10.8	4.75	4.3	（内外）10YR7/3 にぶい黄橙	2mm 以下の砂粒含む	1/2 残存
51	包含層	土師質土器	椀	11.0	5.0	4.0	（内外）10YR8/3 浅黄橙	1mm 以下の砂粒含む	2/3 残存
52	包含層	土師質土器	椀	11.1	－	－	（内外）2.5Y6/2 灰黄	1mm 以下の砂粒含む	1/2 残存
53	包含層	土師質土器	杯	11.4	5.8	2.9	（内外）10YR6/3 にぶい黄橙	1mm 以下の砂粒含む	1/3 残存
54	包含層	土師質土器	椀	10.8	－	－	（内外）10YR7/3 にぶい黄橙	1mm 以下の砂粒多く含む	口縁部　1/4 残存
55	包含層	土師質土器	椀	10.2	－	－	（内外）10YR8/3 浅黄橙	2mm 以下の砂粒含む	口縁部　1/5 残存
56	包含層	土師質土器	椀	11.75	－	－	（内外）2.5Y6/2 灰黄	精良	口縁部　1/6 残存
57	包含層	土師質土器	椀	10.25	－	－	（外）10YR8/3 浅黄橙 （内）10R6/4 にぶい赤橙	1mm 以下の砂粒含む	口縁部　1/7 残存

掲載番号	出土遺構	種別	器種	法量（cm）			色調	胎土	特徴
				口径	底径	器高			
58	包含層	土師質土器	椀	10.2	−	−	(内外) 10YR6/6 明黄褐	精良	口縁部 1/6 残存
59	包含層	土師質土器	椀	9.6	−	−	(外) 10YR7/4 にぶい黄橙 (内) 7.5YR6/8 橙	1mm 以下の砂粒多く含む	口縁部 1/6 残存
60	包含層	土師質土器	皿	6.8	5.8	1.0	(内外) 10YR8/3 浅黄橙	1mm 以下の砂粒含む	完形
61	包含層	土師質土器	皿	7.05	5.15	1.35	(内外) 10YR8/3 浅黄橙	1mm 以下の砂粒含む	完形
62	包含層	土師質土器	皿	6.9	5.3	1.8	(内外) 10YR8/3 浅黄橙	1mm 以下の砂粒含む	ほぼ完形
63	包含層	土師質土器	皿	7.0	5.6	1.35	(内外) 7.5YR7/1 明褐灰	1mm 以下の砂粒含む	ほぼ完形
64	包含層	土師質土器	皿	7.8	5.4	2.15	(内外) 10YR8/3 浅黄橙	精良	ほぼ完形
65	包含層	土師質土器	皿	6.6	5.5	1.3	(内外) 7.5YR7/6 橙	1mm 以下の砂粒多く含む	ほぼ完形
66	包含層	土師質土器	皿	7.2	5.35	1.75	(内外) 10YR8/3 浅黄橙	1mm 以下の砂粒含む	ほぼ完形
67	包含層	土師質土器	皿	7.0	5.3	1.8	(内外) 2.5Y8/2 灰白	1mm 以下の砂粒含む	3/4 残存
68	包含層	土師質土器	皿	6.55	5.9	1.85	(内外) 2.5Y7/3 浅黄	2mm 以下の砂粒含む	2/3 残存
69	包含層	土師質土器	皿	7.1	6.7	1.3	(内外) 2.5Y8/2 灰白	精良	1/3 残存
70	包含層	土師質土器	皿	7.2	4.6	1.5	(外) 10YR7/2 にぶい黄橙 (内) 10YR8/3 浅黄橙	2mm 以下の砂粒含む	1/3 残存
71	包含層	土師質土器	皿	6.9	5.2	1.3	(内外) 7.5YR8/4 浅黄橙	1mm 以下の砂粒多く含む	1/4 残存
72	包含層	土師質土器	皿	6.6	4.9	1.3	(内外) 7.5YR8/4 浅黄橙	1mm 以下の砂粒含む	1/5 残存
73	包含層	土師質土器	皿	7.8	5.6	1.5	(内外) 10YR8/3 浅黄橙	1mm 以下の砂粒含む	1/6 残存
74	包含層	土師質土器	皿	6.9	5.25	1.65	(内外) 10YR8/2 灰白	精良	1/7 残存
75	包含層	土師質土器	皿	7.6	5.5	1.55	(内外) 10YR8/3 浅黄橙	精良	1/8 残存
76	包含層	土師質土器	皿	7.2	5.6	1.35	(内外) 10YR8/3 浅黄橙	1mm 以下の砂粒含む	1/6 残存
77	包含層	土師質土器	皿	6.9	5.3	1.2	(内外) 7.5YR8/4 浅黄橙	1mm 以下の砂粒含む	1/6 残存

第６表　土製品観察表

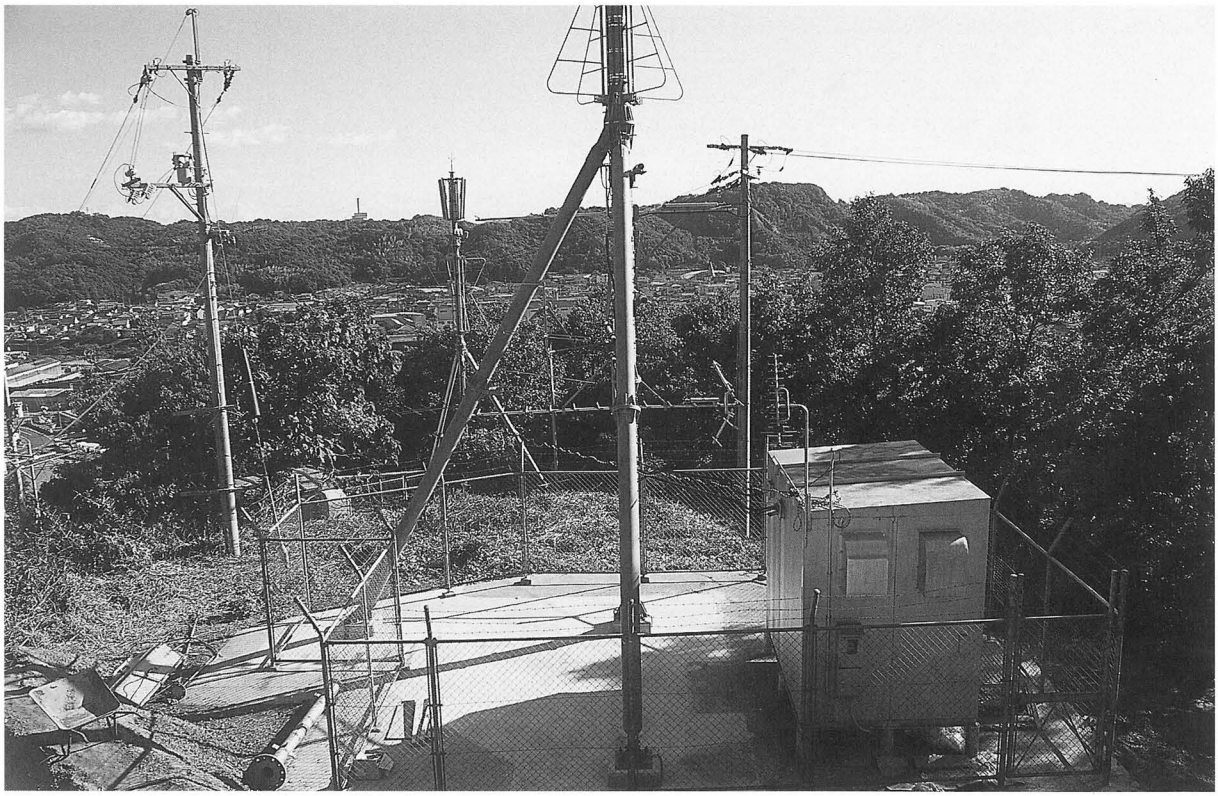
掲載番号	出土遺構	器種	法量（cm）			重量（g）	色調	胎土	特徴
			口径	底径	器高				
C1	不明遺構	土錘	4.3	1.6	0.4	8.0	5YR6/6 橙	1mm 以下の砂粒を含む	完形
C2	不明遺構	土錘	(4.0)	1.45	0.45	8.5	10YR 7/4 にぶい黄橙	1.5mm 以下の砂粒を少し含む	3/4 残存
C3	不明遺構	土錘	(3.75)	1.45	0.5	6.1	10YR 7/4 にぶい黄橙	精良	ほぼ完形
C4	不明遺構	土錘	4.9	1.25	0.35	6.6	5YR6/6 橙	1mm 以下の砂粒含む	完形
C5	不明遺構	土錘	4.4	1.3	0.4	5.2	10R5/8 赤	1mm 以下の砂粒少量含む	完形
C6	不明遺構	土錘	4.05	1.2	0.25	5.3	10YR7/4 黄橙	1mm 以下の砂粒含む	完形
C7	不明遺構	土錘	4.1	1.2	0.3	4.9	2.5YR6/8 橙	精良	完形
C8	不明遺構	土錘	3.7	1.2	0.3	4.2	10R6/8 赤橙	精良	完形
C9	不明遺構	土錘	4.0	1.15	0.25	4.7	2.5YR5/8 明赤褐	1mm 以下の砂粒含む	完形
C10	不明遺構	土錘	3.8	1.2	0.25	4.4	5YR6/6 橙	精良	完形
C11	不明遺構	土錘	3.6	1.0	0.35	2.9	10R4/8 赤	精良	完形
C12	不明遺構	土錘	3.5	1.1	0.35	3.8	7.5YR6/4 にぶい橙	1mm 以下の砂粒含む	完形
C13	不明遺構	土錘	3.4	1.0	0.35	3.2	10R4/8 赤	精良	完形
C14	包含層	土錘	6.0	1.65	0.6	13.0	7.5YR7/6 橙	精良	完形
C15	包含層	土錘	4.75	1.6	0.5	11.7	10R5/8 赤	精良	完形
C16	包含層	土錘	4.8	2.1	0.4	14.7	7.5YR7/4 にぶい橙	精良	完形
C17	包含層	土錘	(4.8)	1.1	0.25	6.3	10YR3/1 黒褐	精良	ほぼ完形
C18	包含層	土錘	3.7	1.2	0.3	6.4	7.5YR6/4 にぶい橙	精良	ほぼ完形
C19	包含層	土錘	(4.5)	1.25	0.55	6.6	7.5YR7/4 にぶい橙	精良	2/3 残存
C20	包含層	土錘	(3.75)	1.6	0.5	6.1	10YR8/3 浅黄橙	1mm 以下の砂粒含む	2/3 残存

第７表　金属製品観察表

掲載番号	出土遺構	器種	材質	法量（cm）			重量（g）	備考
				長さ	軸部径	頭部径		
M1	包含層	釘	鉄	9.6	0.85 × 0.6	1.5 × 0.6	28.2	先端部欠損
M2	包含層	釘	鉄	5.6	0.6 × 0.5	1.1 × 0.9	9.3	先端部欠損
M3	不明遺構	釘	鉄	4.4	0.5 × 0.6	1.0 × 0.9	7.3	先端部欠損

※「−」は不明項目、「(数字)」は残存値を示す。

1　青蔭城跡遠景（南から）



2　青蔭城跡からの眺望（北から）

図版２

１　確認調査作業風景（北東から）

２　発掘調査作業風景（北から）

１　不明遺構調査風景（北西から）

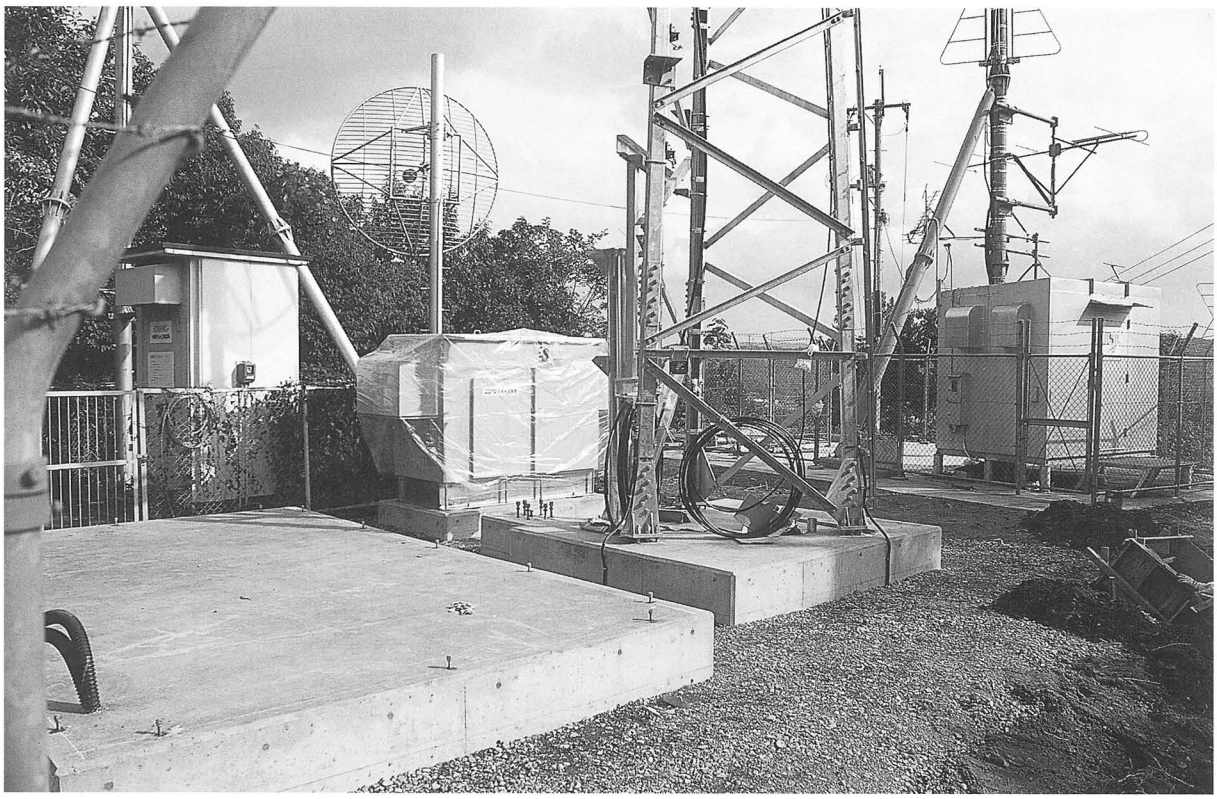
２　不明遺構遺物出土状況（東から）

図版４

1　不明遺構土層断面（南から）

2　不明遺構完掘状況（北から）

１　調査区完掘状況（東から）



２　調査終了後アンテナ設置状況（北西から）

図版６

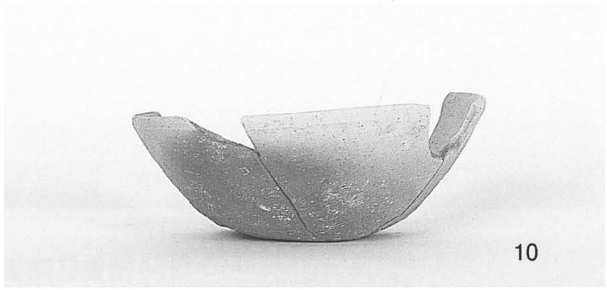
5

6

7

8

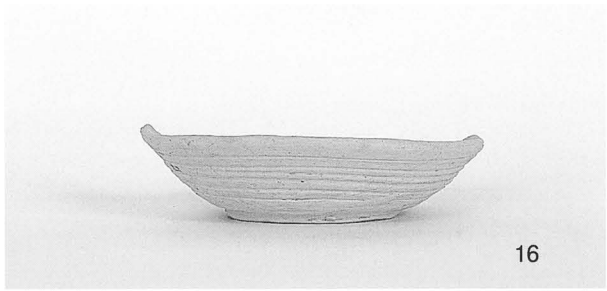
9


10

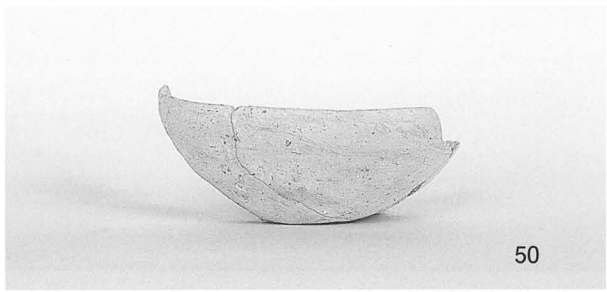
12

13

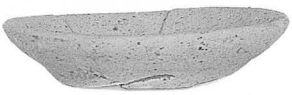
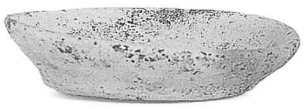
15


16

48


50

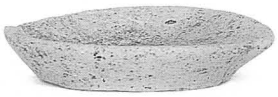
出土土器１

27

28

29



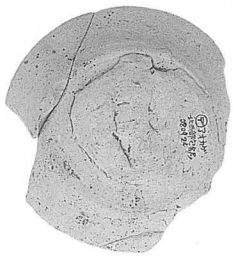
30

60

61

62

63


64

出土土器２

図版８

65

66

67

C１

C２

C３

C４

C５

C６

C７

C８

C９

C10

C11

C12

C13

C14

C15

C16

C17

C18

出土土器３・出土土製品

報告書抄録

ふりがな	あおかげじょうせき
書名	青蔭城跡
副書名	デジタル井原中継局建設
巻次	
シリーズ名	井原市埋蔵文化財発掘調査報告
シリーズ番号	3
編著者名	高田知樹
編集機関	井原市文化財センター
所在地	〒715－0019 岡山県井原市井原町333－1 ＴＥＬ0866－63－3144
発行機関	井原市教育委員会
所在地	〒715－8601 岡山県井原市井原町311－1 ＴＥＬ0866－62－9541
発行年月日	2009年３月31日

ふりがな 収載遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
あおかげじょうせき 青蔭城跡	おかやまけんいばらし 岡山県井原市 にしえばらちょうあざあおかげ 西江原町字青蔭 1954-1	33206	9 － 10	34° 36' 122"	133° 28' 196"	20080909 ～ 20081003	86.9㎡	デジタル井原中継局建設事業

所収 遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特起事項
青蔭城跡	城館跡	中世	柱穴群・不明遺構	備前焼・亀山焼・土師質土器・土製品・鉄器	市内で初めて発掘調査された中世の山城跡

井原市埋蔵文化財発掘調査報告３

青 蔭 城 跡

デジタル井原中継局建設に伴う発掘調査

2009年３月27日　印刷
2009年３月31日　発行

編集・発行　　井原市教育委員会
　　岡山県井原市井原町311－1
印　刷　　友野印刷株式会社